損保ジャパン記念財団 NEWS

SOMPO JAPAN FOUNDATION

発行者
財団法人損保ジャパン記念財団
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル37階
TEL：03-3349-9570　FAX：03-5322-5257
http://www.sompo-japan.co.jp/foundation
Eメール:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

「NPO法人設立助成資金」贈呈式が全国各地で開催されました。

財団法人損保ジャパン記念財団では、2008年度社会福祉助成金として、全国の46団体の障害者・特定非営利活動法人（NPO法人）設立資金として各30万円、合計1,380万円の助成を決定しました。
首都圏地区につきましては本社ビルにて、その他の地区につきましたは、8月以降全国各地において、助成先の地区を担当する損保ジャパンの地区本部または支店主催で、順次開催されました。ご多忙中、ご協力いただいた皆様には、深く感謝申し上げます。

首都圏地区贈呈式

首都圏地区贈呈式は7月29日（火）に来賓を含め約100名の方々の出席を得て、本社43階で開催されました。（助成先は別表のとおりです。）
贈呈式では、高宮専務理事の挨拶、選考委員の松尾武昌氏による選考概要の説明に続き、東京都生活文化スポーツ局都民生活部長 平林宣弘氏からご祝辞をいただきました。
また、「シーズ・市民活動を支える制度をつくる会」の事務局長で、NPO法制定の生みの親の一人である松原明氏からは、NPO活動を活性化する上での示唆に富んだ内容を講演いただき、出席者一同大きな感銘を受けました。助成先の決定通知書は、財団の理事である古川貞二郎氏（元内閣官房副長官）よりお一人おひとりに手渡しさせていただきました。
贈呈式終了後の交流会では、平成20年度贈呈先の代表者の皆さんからご挨拶をいただきました。助成の決定の連絡を受けたときの、驚きと感激を全員の方が話されていました。平成19年以前の贈呈先の代表の方からも「資金助成のお陰で、法人化でき、現在は、事業も順調に発展しています。それもすべて損保ジャパンさんのお陰です。」と篤い感謝の言葉をいただき、この資金助成がNPO法人の活動の活性化に大きく貢献していることを改めて実感いたしました。

平成20年度NPO設立資金助成首都県贈呈先

都道府県	団体名	代表者	事業内容
埼玉県	こだま作業所・悠々クラブ運営委員会	牧孝男	精神障害者小規模作業所運営事業
千葉県	上総小農苑	菊池隆夫	障害者の小規模農園と養鶏場
千葉県	ウィズ柏	木村史子	高機能自閉症アスペルガー症候群の人々の社会参加の支援
東京都	調布心身障児（者）親の会	村上佳子	小規模作業所（2ヶ所）と喫茶店を運営
東京都	福祉作業所ポピーの家	小畑秀郎	清掃作業、牛乳パック回収、自主製品の製作・販売
東京都	網膜変性研究基金	小出佳子	治療法が確立されていない網膜変性症の研究支援と相談
神奈川県	共同作業所なかまの家	塚原敏子	障害者の自立を目標に小規模作業所を運営
神奈川県	地域作業所カプカプ運営委員会	西山哲也	作業所カプカプで、喫茶、製菓、創作（陶芸、絵画）を運営

＊敬称略

松尾選考委員長



平林都民生活部長



松原事務局長（シーズン）



髙宮専務理事



古川理事





©JAPAN-DA

贈呈式の様子を紹介します



©JAPAN-DA







古川理事より決定通知書を
各団体の代表の皆さんにお渡ししました。





贈呈先の皆さんの心のこもった挨拶①



安藤選考委員による乾杯と挨拶

交流会の様子







高宮専務理事からのねぎらい



贈呈先の皆さんの心のこもった挨拶②

全国贈呈式特集

1ページで紹介しましたように首都圏地区以外の贈呈式は、全国の損保ジャパンの部支店で開催され、その模様は、全国各地のマスコミで数多く紹介されました。贈呈式の新聞記事や写真とともに、贈呈式の運営に携わっていただいた職員の皆さんの感想を併せてご紹介します。贈呈式では、贈呈先の皆さんの殆どが決定の報を聞いたときの驚きと感激を一様に話され、本助成金が、SJグループの社会貢献活動の一環として、大きな貢献を果たしていることを改めて認識したと担当者の皆さんが異口同音に感想を述べられています。以下に全国の新聞等に掲載された記事、贈呈式の写真、担当者の一言感想、明るい笑顔の担当者の写真等を掲載しますので、是非お目通しください。

マスコミ紹介一覧

掲載No	部支店	支店長(部長)担当者	紹介されたマスコミ等	掲載ページ
1	札幌支店	桑田 憲吾 鈴木 希望	北海道新聞 札幌テレビ放送	3
2	北北海道支店	坂本 淳一 梅本 晃	北海道新聞 メディアあさひかわ グラフ旭川	4
3	南北海道支店	岡田 一郎 尾間 一元	北海道新聞 函館新聞	5
4	秋田支店	大内 一到 小山田 隆	秋田テレビ	5
5	茨城支店	梅崎 俊郎 松本 啓太	茨城新聞	6
6	群馬支店	長谷川 哲朗 山出 あゆみ	新日本保険新聞 上毛新聞 保険毎日新聞	6
7	富山支店	陶山 雅弘 河野 好治	北日本新聞 富山新聞	6
8	長野支店	荒井 啓隆 斎藤 宏明	一言感想	8
9	岐阜支店	野口 正 江川 毅	中日新聞 岐阜新聞	8
10	愛知東支店	宮下 佳蔵 濡川 敏志 伊藤 早穂	一言感想	8
11	名古屋支店	田中 一久 池田 晃子	一言感想	9
12	三重支店	渡部 雄二 稲毛 道	中日新聞	9
13	滋賀支店	足立 浩次 山田 克巳	中日新聞	9
14	関西総務部	岡田 正(部長) 山﨑 緑	保険毎日新聞 日刊自動車新聞	10
15	鳥取支店	大山 敬三 小沼 勝彦	日本海新聞	10
16	徳島支店	圓岡 純一 小宮 英治	徳島新聞	11
17	高松支店	中村 茂樹 市川 善弘	四国新聞	12
18	九州業務部総務課	佐藤 佳哉(部長) 籾 洋子	一言感想	12
19	長崎支店	藤田 淳 青木 慎一郎	一言感想	12
20	宮崎支店	飯豊 聡 杉本 好幸	一言感想	12

1 札幌支店

北海道新聞 9月27日

NPO設立準備
2団体に助成金
損保ジャパン

損保ジャパン記念財団(東京)は二十五日、札幌市中央区の損保ジャパン札幌支店で、NPO法人の設立を準備している「誘喜」と「札幌久遠福祉協会」の二団体に助成金三十万円を贈呈した。同財団は一九九九年から毎年、福祉系のNPO法人の設立を支援している。今年は全国で四十六団体が選ばれた。

この日は、誘喜の大川原祐美子常務理事と札幌久遠福祉協会の神田賢一理事長が、同支店を訪れ、桑田憲吾支店長から助成決定通知書を受け取った。大川原常務理事は「設立にはお金がかかる。こうした支援は本当にありがたい」と感謝していた。

担当者コメント　札幌支店　鈴木 希望

助成先の皆様に心から喜んでいただいたことがとても印象的でした。NPO法人の設立には、金融機関を通しての資金繰りがとても困難であり、こういう助成金がいただけるのは非常にありがたいことだそうです。また、損保ジャパングループとして福祉事業に関わってきた歴史を知り、福祉事業と当社とのつながりを感じました。贈呈式に関しては、もっとたくさんの社員の方に参加していただき、普段あまり触れる機会のない当社の一面をぜひ見ていただきたいと思います。







北海道新聞 9月27日

担当者コメント　北北海道支店　梅本 晃

助成先はすでにNPO法人設立に向けた準備をしており、社会福祉協議会や関連団体など地域福祉団体とも関わりをもっていることから、今後も損保ジャパンとして協力関係を深めていきたい。旭山動物園で、障害者手作りのマスコット販売も手がけており、今後NPO法人設立後の活躍も期待したい。



双葉作業所「もっと開かれた作業所に」。損保ジャパン記念財団が助成金寄贈

メディアあさひかわ 10月号

8月27日、旭川市2条9丁目にある㈱損保ジャパン北北海道支店で、市内の障害者地域共同作業所「双葉作業所」に対し、同社が出資して設立された（財）損保ジャパン記念財団の社会福祉助成金の贈呈式が行われた。

この活動は、昭和52年、同財団が設立した当時から行われ、今年で31回目を迎えた。その中で、NPO法人設立資金助成は平成11年から始まり、今年は道内で4団体（札幌2、函館、旭川1）が選ばれ、旭川を含めた道北地区では、双葉作業所1団体が選ばれた。



選ばれた双葉作業所の伊藤亨さんは、「今回の助成金授与を機に、障害者の方が前向きな姿勢で今後の人生が送れるよう、開かれた作業所にしたい」と抱負を述べた。一作業所としてではなく、社会的認知度や行政からの補助金が受けられることで、これまで以上に作業する障害者の人たちへ貢献したいとしている。

また、現在の作業所に通所者以外の人とも話し合える憩いの場として、喫茶店のような場所を設ける予定。

双葉作業所は、平成11年に市内3条17丁目に開設され、10年目を迎えた今年は、18人の障害者が利用している。

贈呈式　㈶損保ジャパン記念財団が市内の共同作業所にNPO法人設立助成

グラフ旭川 10月号



▲坂本支店長から通知書を受け取る伊藤さん。

㈶損保ジャパン記念財団が行っているNPO法人設立に向けての助成に、旭川市内の障害者地域共同作業所「双葉作業所」（伊藤千枝子代表／旭川市3条17丁目）が選ばれ、8月27日、同社北海道支店で助成決定通知書の贈呈が行われた。

同財団は、昭和52年より社会福祉の助成を行っており、NPO法人設立の助成は今回で10回目となる。

坂本淳一北海道支店長から通知書を受け取った同作業所の指導員、伊藤亨さんは、「今後、障がい者の自立支援の場を確固たる場にする為に助成金を使わせて頂きます」と挨拶した。

なお、道内ではこの他に函館の点字図書館など2件が助成を受けた。

作業所NPO法人化　設立準備に30万円　損保ジャパン財団

北海道新聞 8月28日



損保ジャパン財団（東京）は二十七日、損保ジャパン北海道支店（旭川）で、NPO法人の設立準備を進めている旭川の「障害者地域共同作業所双葉作業所」（伊藤千枝子代表）に助成金三十万円を贈呈した＝写真＝。

本年度の同財団の助成には全国で四十六団体、道内から四団体が選ばれた。道北からは同作業所のみ。

坂本淳一支店長から助成決定通知書を受け取った同作業所の伊藤亨指導員は「ロッカーの整備費などに充てたい」と礼を述べた。

同作業所は十八人の通所者が洋服のリフォームなどで社会参加に取り組む。NPO法人の認証申請を道に提出している。

3　南北海道支店

担当者コメント
南北海道支店　尾間 一元

当社助成制度の意義、貢献度の高さを認識することができた。特に助成金の「使途を問わない」簡便さに高い評価をいただいた。今後は多くの職員が贈呈式に立ち会うことで、本制度の意義を広めたい。



函館新聞 8月23日

点字図書館に30万助成

損保ジャパン記念財団　NPO法人の設立に

財団法人損保ジャパン記念財団（東京、佐藤正敏理事長）は本年度、函館点字図書館（島信一朗理事長）にNPO法人設立資金として30万円を助成することを決めた。22日に函館市内の損害保険ジャパン南北海道支店で贈呈式があり、岡田一郎支店長が島理事長に助成決定通知書を手渡した。

同財団は1977年10月の設立以来、福祉活動への支援に取り組み、99年度からは地域福祉を支えるNPO法人化を目指す福祉団体に助成している。本年度は全国から82件の応募があり、審査の結果、46件に選定。道内4件のうち、道南からは同図書館が唯一選ばれた。

贈呈式で岡田支店長は「法人化で活動が大きく発展し、市民活動の先駆的役割を担って地域の社会福祉に貢献することを期待したい」と激励。島理事長は「（視覚障害者に）平等に情報提供できる環境をつくりたい」と意気込みを語った。

同図書館は、任意団体として長年活動。現在は市総合福祉センター（若松町）内で点字本やテープ、CDによる情報提供を行っている。国連の障害者権利条約を背景に、生活全般に必要な情報を提供する地域拠点を目指し、年度内にNPO法人を設立する。助成金は設立経費などに充てられる。（宮木佳奈美）



岡田支店長から通知書を受け取る島理事長（右）

北海道新聞 8月23日

点字図書館に30万円を助成

損保ジャパン財団

損保ジャパン記念財団（東京）は二十二日、NPO法人化を目指している函館点字図書館（函館市若松町）に三十万円の助成を決め、市内の損保ジャパン南北海道支店で贈呈式を行った。

同財団は、NPO法人の設立を目指す全国の団体に資金援助している。同図書館は、視覚障害者団体や朗読ボランティアなどが運営し、本や新聞の点字化や音訳図書のデジタル化などで障害者に情報を提供している。贈呈式では、南北海道支店の岡田一郎支店長が同図書館の島信一朗理事長に助成決定通知書を手渡した。島理事長は「法人格を取得し、視覚障害者の生活に役立つ情報の充実を図りたい」と話し、本年度内のNPO法人化に期待を込めた。



助成の決定通知書を受け取る島理事長（右）

担当者コメント　秋田支店　小山田 隆

施設の職員が懸命に働く姿を見て感動しました。助成金を役立てていただき、NPO法人化が実現することを願ってやみません。

秋田支店　贈呈式の様子



4　秋田支店





5　茨城支店

担当者コメント
茨城支店　松本 啓太

十数年来、地道な活動を続けておられ、些少でも当社として支援ができたことを誇りと感じた。



茨城新聞 8月19日

NPO設立資金 「虹の家」に30万

損保ジャパン財団（東京）は、取手市光風台の福祉団体「虹の家」（川田敬文代表）に特定非営利活動法人（NPO法人）の設立資金として助成金三十万円を贈呈することを決めた。このほか、全国の障害者・高齢者福祉分野の四十六団体に計千三百八十万円を贈る。

同財団は一九七七年、損保ジャパンにより設立され、九九年からNPO法人設立資金を助成し、本年度が十回目。

6　群馬支店

担当者コメント　群馬支店　山出 あゆみ

助成先の皆さんが苦労されていることや将来の展望、熱意がひしひしと伝わってきました。助成金を大変喜ばれており、地元での活動に活かされることを実感しました。身近な問題として考える良いきっかけとなりました。



上毛新聞 8月29日

NPO設立助成 2団体に30万円

損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団（佐藤正敏理事長）は二十八日、前橋市本町の損保ジャパン前橋ビルで、障害者や高齢者福祉関連の活動を行う県内二団体に、特定非営利活動法人（NPO法人）設立資金としてそれぞれ三十万円ずつを贈った。

同財団は一九九九年から、民間福祉活動の推進を目的に助成を実施。今年は全国で八十二団体から応募があり、四十六団体が助成を受けた。

本県で助成を受けたのは、県内の病院などで誤嚥性肺炎の予防を指導する「群馬摂食・嚥下研究会」（高崎市）と、利根沼田地区で精神障害者を支援している「こころの応援団」（みなかみ町）の二団体。

贈呈式で、損保ジャパン群馬支店の長谷川哲朗支店長は「法人格取得後には、より活発な活動をされることを望みます」とあいさつし、団体の代表者に目録を手渡した。



助成金の目録を受け取る団体の代表（右）

新日本保険新聞 9月15日





助成金贈呈式

NPO法人設立資金助成、群馬支店で贈呈式

損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団では社会福祉活動の一環として、社会福祉団体へのNPO法人設立資金助成を行っており、今年度は障害者・高齢者福祉団体など全国46の団体が助成団体に選出された。このうち群馬地区からは2団体が選ばれ、8月28日には損保ジャパン群馬支店で助成金贈呈式が行われた。

選出されたのは「特定非営利活動法人群馬・嚥下研究会」と「こころの応援団」。2団体にはNPO法人設立資金として各30万円が贈呈される。

贈呈式で、損保ジャパン群馬支店の長谷川哲朗支店長が「立派な法人として活躍することを期待しており、そのためには損保ジャパンでもできる限り協力したい」と挨拶。

贈呈団体のうち「特定非営利活動法人群馬・嚥下研究会」の山川治代表は「さまざまな病気を持つ障害者に少しでもおいしい食事を食べさせてあげたいという思いで会を立ち上げた」と団体設立時の理由を述べ、「こころの応援団」の千代田すみ子代表は「精神障害者はいまだに、一般社会から隔離対象になりがち。私たちに何ができるのかはまだ模索中だが、各地で輪が広がれば（障害者が）暮らしやすい世の中になるはず」とNPO活動への思いを述べた。

来賓で挨拶した群馬県NPO・ボランティア推進課の田中一雄課長は「活動への思いがあっても資金不足の団体は多い。その意味でも損保ジャパンの取り組みには感謝している」と謝辞を述べた。

7　富山支店

担当者コメント
富山支店　河野 好治

元気に遊ぶ子供たちの姿、また、それを支える地域社会の結びつきをみるにつけ、同法人の設立理念が十分に伝わってまいりました。今年度は施設で贈呈式を実施したことで、より活動内容を深く知ることができました。



北日本新聞 8月2日

NPO設立に助成

損保ジャパン記念財団（理事長・佐藤正敏損保ジャパン社長）は一日、南砺市山斐（井波）のNPO法人「モモのところにいってごらん」（小西恵子理事長）にNPO法人設立資金として三十万円を助成した。

同財団は本年度、社会福祉助成金として全国四十六の障害者・高齢者福祉団体に助成。「モモの」は七月十六日に設立の認証を受け、登記を申請している。

同日は同社の陶山雅弘富山支店長と徳達夫県民ボランティア総合支援センター事務局長らが小西理事長の自宅を訪問。陶山支店長が助成決定通知書を小西理事長に贈った。

小西理事長は「今後も子どもや高齢者らのために一生懸命にやりたい」とあいさつした。

富山新聞 8月2日

南砺のNPOに助成

障害者や高齢者の福祉団体を支援する損保ジャパン記念財団は一日、南砺市山斐の「モモのところにいってごらん」（小西恵子代表）にNPO法人設立資金として三十万円を贈った。

小西代表の自宅を活用した「モモのところにいってごらん」は、先月十六日にNPO法人として県の認証を受け、登記の準備を進めている。損保ジャパンの陶山雅弘富山支店長が小西代表に助成通知書を手渡した。

NPO法人設立資金助成

群馬地区の贈呈式開催

損保ジャパン記念財団

総額1380万円に

(財)損保ジャパン記念財団（佐藤正敏理事長）は、全国46の障がい者・高齢者福祉団体に対し、特定非営利法人（NPO法人）設立資金として1団体30万円、合計1380万円の助成を決定した（2008年度の社会福祉助成金）。これに伴い、群馬地区の贈呈式が8月28日午後3時から4時まで、損保ジャパン前橋ビル8階会議室で開催され、「特定非営利活動法人　群馬摂食・嚥下研究会」（山川治代表）と「こころの応援団」（千代田すみ子代表）の贈呈先2団体に目録が手渡された。



群馬県では2団体が選ばれた


目録を受け取る千代田代表（左）

贈呈式では、損保ジャパン記念財団の佐藤理事長の代理として、損保ジャパン群馬支店の長谷川哲朗支店長が主催者を代表してあいさつ。同財団の説明に加え、今年度の助成先などの動向に触れた上で、「群馬県では昨年の3団体に引き続き、今年も贈呈先に2団体が選ばれたことは大変喜ばしいこと。法人格を取得されることにより、今後ますます地域の社会福祉の向上に貢献されることを大いに期待している」と述べた。

また、来賓として出席した群馬県NPO・ボランティア推進課の田中一雄課長が、「群馬県内のNPO団体も580から600に迫る勢いで設立されているが、その中の半数が社会福祉関係である。NPO法人に対する期待は年々高まっている。実際設立したいが資金がないと困っている団体もいるところ、このように助成金を贈呈していただけることは大変ありがたいことである。群馬摂食・嚥下研究会は、近日認証予定であり、ここころの応援団は現在申請手続き中である」とあいさつした。

贈呈先2団体の代表からは、次のような自己紹介を含めたあいさつがあった。

▽山川氏（特定非営利活動法人　群馬摂食・嚥下研究会）

助成金の贈呈を大変喜んでいる。要介護高齢者や嚥下・摂食障害を有する障がい者に対し、少しでも安全なものを美味しく食べさせてあげたいという思いで、5年前から研究を重ねている。群馬県内では赤城・榛名の麓に障がい者施設が50～60カ所あり、そういった施設に対し協力していきたい。形は違っても美味しいものを家族で一緒に食べられることは大変重要で、現在は調理実習も行っている。正しく食べさせることの指導や啓発を通して、一人でも多くの人が食することを楽しみ、寝たきりにならないよう貢献していきたい。

▽千代田氏（こころの応援団）

群馬県の利根沼田地域で、主に精神障害者の方に対しケア活動を行っている。NPO法人を設立しようとした目的は、人材面、資金面、周囲の方々の信頼性を増していきたいと考えたためである。心を病んでしまった人たちや、知的障がい者の方は地域社会から阻害されがちだが、時間をかけてお互いを知ることが大切であり、その際間は埋められる。虐待やいじめなど環境に起因する病気から子どもたちを遠ざけることも可能になる。やっていることはローカルな小さなことだが、地域の皆さんと共にやっていこうという精神を大切にし、活動を継続的に行っていきたい。

◇

同財団では、福祉活動を行う団体がNPO法人格を取得することにより社会的な信用を高め、組織の強化、さらには継続的で活発な活動へと発展し、わが国の福祉の向上に大きく貢献することを期待して、1999年4月からNPO法人化を支援する助成事業を開始、今年度で10年目を迎えた。

保険毎日新聞 9月9日

8　長野支店

担当者コメント　長野支店　斎藤 宏明

助成が決まったときはオリンピックで金メダルを取ったような喜びだったそうです。また、贈呈式を地元で開催してもらってありがたいとのことです。

担当者コメント　岐阜支店　江川 毅

助成金の贈呈に対し、非常に喜んでいただいた。新聞社が取材にきていたこともあり、助成先の活動内容および、当社の社会貢献活動を十分アピールできた。





担当者　石崎真純

岐阜支店　贈呈式の様子



中日新聞 8月8日

県内2団体に助成金贈呈

損保ジャパン記念財団

体などの法人化を支援するNPO法人設立助成金の贈呈式を、岐阜市の損害保険ジャパン岐阜ビルで開いた。

財団法人損保ジャパン記念財団は七日、障害者・高齢者福祉団体など四十六団体。県内で対象になったのは全国四十六団体。県内で決定通知書を受け取った。

助成を受けるのは「障がい者パソコンサポーターの会」（可児市）「e－gao（えがお）」（岐阜市）の二団体。損保ジャパンの野口正岐阜支店長から「e－gao」の西村清彦理事長は「まさか助成していただけるとは思わなかった。気を引き締めて頑張りたい」と話していた。（青山直樹）

9　岐阜支店

岐阜新聞 8月8日

決定通知書を受け取る「障がい者パソコンサポーターの会」の中本由美子会長＝岐阜市金町、損保ジャパン岐阜支店



県内福祉2団体を助成へ

損保ジャパン財団 NPO法人格取得 後押し

損保ジャパン記念財団は七日、NPO法人格の取得を目指している県内の福祉団体二団体に対し、それぞれ三十万円を助成する決定通知書を交付した。

交付を受けたのは、可児市で障害者のパソコン指導に取り組む「障がい者パソコンサポーターの会」（中本由美子会長）と岐阜市マーケットの開催や福祉農園の運営に実績がある「e－gao（えがお）」（西村清彦代表理事）。

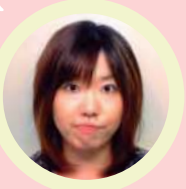
同財団は、行政からの業務委託の要件とも なる法人化を支援しようと、一九九九（平成十一）年度から全国で助成を続けている。本年度は全国で四十六団体に助成する。

岐阜市金町の損害保険ジャパン岐阜ビルであった贈呈式では、損保ジャパン岐阜支店の野口正支店長が「皆さんの団体がさらに発展し、わが国の市民活動の先駆けになってほしい」とあいさつし、両団体の代表に助成決定通知書を手渡した。

10　愛知東支店

担当者コメント
愛知東支店　伊藤 早穂

活動していく中で、皆さんが同じような悩みを抱えていることなどがわかり、情報交換の場になったようです。今後も損保ジャパンとして支援していけることがあればしていきたいと思いました。実際に生の声をきくことができ良かったです。



愛知東支店　贈呈式の様子









11　名古屋支店

担当者コメント　名古屋支店　池田 晃子

具体的な活動のお話を伺い、感激した。





12　三重支店

担当者コメント　三重支店　稲毛 道

心身障害者の就労支援として、パン作りとその販売を行っている助成先です。接客に関してぶつかる壁も多いそうですが、人との関わりや働くことを経験する場となり、社会との窓口として大きな役割となっているようです。



桑名の小規模作業所「さらい」

法人設立へ助成金

損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団（東京）が四日、特定非営利活動法人（NPO法人）設立の助成金として桑名市の障害者小規模作業所「さらい」に三十万円を贈った。助成は財団が九年前から実施し、今年は全国四十六団体に計千三百八十万円を寄贈。この日は、津市栄町の損保ジャパン三重支店で、渡部雄二支店長が「さらい」の中村千代子施設長に助成通知を手渡した。

「さらい」は、桑名市星川のサンシティ内のカフェで、知的障害者らがパンを焼いて販売している。中村施設長は「障害者自立支援法によって本年度中に法人格を取らなければならず、助成は非常に助かる」と喜んでいた。（大島康介）



中村千代子施設長に通知を渡す渡部雄二支店長＝津市栄町の損保ジャパン三重支店で

中日新聞 8月5日

三重支店　贈呈式の様子



13　滋賀支店

担当者コメント　滋賀支店　山田 克巳

重度知的障害を持つ通所者が、一般の人々と同じ生活を体験させることをコンセプトとしている助成先です。これを機に世間で知的障害者について正しい理解が得られることが嬉しいとの言葉が大変印象的でした。



「れんげはうす」に福祉団体助成金

損保ジャパン

障害者の自立を支援する「共同作業所れんげはうす」（彦根市）が大津市打出浜の損保ジャパン滋賀支店で同記念財団から三十万円の助成金を受けた。財団は一九九九年から、特定非営利活動法人（NPO法人）を設立する障害者・高齢者福祉団体に助成金を贈ってきた。今年は全国四十六団体に助成する。県内で今年唯一、助成を受ける「れんげはうす」は十五年の歴史があり、二十―三十五歳の知的障害者十人の労働作業を援助する。障害者自立支援法の施行で、来年四月から法人資格が必要になることから、六月にNPO法人申請し、二十日に認証された。

法人の理事となる小野順四郎さん（ゐ）は「施設では障害者に健常者と同じ体験をしてもらうことを目指しているので、助成はありがたい」と話していた。（曽布川剛）

中日新聞 8月24日



14　関西総務部



関西での助成金贈呈式

社会福祉に貢献
NPOに設立資金
損保ジャパン記念財団 関西は13団体

損害保険ジャパンが出捐する損保ジャパン記念財団（佐藤正敏理事長）は、全国46の障害者・高齢者福祉団体など社会福祉団体へ、1団体当たり30万円とする特定非営利活動法人（NPO法人）設立資金の助成を決めた。このうち、関西地区では13団体に助成を行う。1日に大阪市中央区の同社大阪ビルで助成金贈呈式を開き、10団体15人の関係者が出席した。

式典で、損保ジャパンの岡田正関西総務部長は「過去に設立資金を支援した各団体は地域に貢献している。これからも活躍してほしい」とあいさつ。損保ジャパン記念財団の今井英雄理事は「皆さまは市民活動の担い手。今後も活動にいそしんでほしい」と労った。

出席した各団体の代表者もあいさつし、「助成金は励ましになる」や「充実した作業場を運営したい」「障害者に生きがいを与えたい」などと感謝の言葉を贈った。

助成先は次の通り。（敬称略）

▽大阪＝福祉作業場光の友、障害児育児の場わかば、大阪ハンディキャップセンターT・ハウス▽兵庫＝開拓松葉園、小規模作業所鮫、福祉会やじろべえ、しらさぎ作業所、神戸市重度心身障害児（者）父母の会▽京都＝共同作業所ハーフタイム▽滋賀＝共同作業所れんげはうす▽奈良＝奈良県自閉症協会、奈良ダルク▽和歌山＝和歌山県自閉症協会

日刊自動車新聞（関西版）9月4日

担当者コメント　関西総務部　山﨑 緑

NPO法人化へのご苦労を含め、日ごろの経営・運営面でのご苦労を垣間見ることができ、各団体がそれぞれの地域で根を張り、行政ではできない細かいケアをされていることを改めて実感しました。また。今回の贈呈式を通じて各団体が互いに運営面での情報交換ができる場、関係を提供できたことも意義あることと考えます。





15　鳥取支店

鳥取県内の2社会福祉団体に助成金

損保ジャパン記念財団（佐藤正敏理事長）は二十九日、鳥取県内の障害者・高齢者福祉団体への助成金贈呈式を同市内のホテルで開いた。NPO法人設立資金として二団体に各三十万円を助成する。

一九七七年の創設時から社会福祉助成を実施。九九年からは民間の福祉活動を推進しようと「NPO法人設立資金助成」を始めた。十回目となる本年度は全国で四十六件、総額千三百八十万円の助成を決定。県内からは「鳥取市精神障害者ふたば会」（豊嶋久夫理事長）、会見町の「小規模作業所ノーム」の糸車（吉田尚代代表）の二団体が選ばれた。

贈呈式は、損害保険ジャパン鳥取支店（同市今町二丁目）の大山敬三支店長、助成先代表者らが出席。大山支店長は「社会福祉の発展に先駆的な役割を果たしてほしい」とあいさつし、吉田代表は「資金的に厳しいところありがたい」と述べた。



助成認定書を手にする豊嶋理事長（左）と吉田代表（右）。中央は大山支店長

日本海新聞 8月30日

担当者コメント　鳥取支店　小沼 勝彦

地元新聞に掲載されたことで、当社のCSR活動が県内に広く認知され、当社の社会的評価の向上に大きく寄与していると感じます。



鳥取支店　贈呈式の様子





16　徳島支店

仕組みを学んだ後、体験コーナーへ。子どもたちはプールに入ったなまこやヒトデに直接触れたり、ビーカーの中で二枚貝が水を浄化する様子を見て歓声を上げていた。

このほか監督測量船「しまかぜ」の乗車や、海面清掃船でのごみ拾いも体験した。

里浦小四年の叶野裕大君(9)は「貝やなまこが自分で海をきれいにしていると知ってびっくりした」と話していた。

県内NPOに助成金30万円

損保ジャパン記念財団（東京）は八日、徳島県内の腎臓病患者や知的障害者らの就労を支援するNPO法人「クレエール」（徳島市昭和町）に助成金三十万円を贈った。

徳島市内の損保ジャパン徳島支店で贈呈式があり、岡崎純一支店長が、クレエールの尾方和男理事長に助成決定通知書を手渡した。岡崎支店長は「助成によって活動の場が広がっていくことを願っています」と激励し、尾方理事長は「NPO法人の運営が経済的に厳しい中、有効活用したい」と謝辞を述べた。

クレエールは今年五月にNPO法人化し、六月に障害者らが働くレストランをオープンさせた。

記念財団は毎年一回、全国の障害者や高齢者の福祉団体に助成している。



圓岡支店長㊧から助成金の通知書を受け取る尾方理事長＝損保ジャパン徳島支店

担当者　徳島支店　小宮 英治

徳島新聞 8月9日



損保ジャパン記念財団

NPO法人設立資金助成

特定非営利活動法人（NPO法人）の設立資金として1団体につき30万円を助成している損保ジャパン記念財団の関西地区における助成金贈呈式が、9月1日午後2時30分から損保ジャパン大阪ビル（大阪市中央区瓦町）で大阪地区3団体、兵庫地区5団体、京都地区1団体、和歌山地区1団体の10団体15人が出席して開催された。当日は、主催者側から今井英雄同財団理事、岡田正損保ジャパン関西総務部長が出席し、決定通知書を交付した。同設立資金助成は、1999年度から実施しているもので、今年度は全国46件、1380万円を助成した。また、昨年度までの9年間の助成先は738団体、助成額合計は約2億2000万円となっている。



岡田氏



今井氏

贈呈式では、岡田関西総務部長が、「関西地区でも助成を続けて10年になるが、それぞれの団体が各地域で、力強く活躍し大きく社会に貢献しているのを見るにつけ喜ばしく思っている。本日、受けられた団体もそれぞれの地域で活躍し、貢献されるものと確信している」とあいさつ。また、今井理事が、損保ジャパン記念財団の活動内容を紹介するとともに、今回の助成に対する選考について述べ、「関西地区は応募者が多く厳しい競争だったが、それだけ関西地区でのNPO法人の設立が多く、人口指数から見ても申請が一番多かった。市民公益活動からみて関西は一番盛んだ。過去の応募者も一番多い。今回の助成をステップにさらに充実させて活躍して欲しい」と祝辞を述べた。



9月1日に開かれた関西地区の贈呈式

引き続き、岡田部長から決定通知書交付書が各団体代表に手渡された。

助成を受けた各団体の代表は喜びを次のように語った。

【大阪ハンディキャップセンター・Tハウス（大阪府）】

名前の通りハンディキャップのある障がい者の作業所として生活の場となっている。理事長も障がいがあり、障がい者が集まって作業している。地域の中で認められ、しっかりした形を作るために法人格のNPO法人になるもって行くに持っていく。援助していただき非常に感謝している。

【開拓松葉園（兵庫県）】

共同作業所と、福祉関係の仕事の生活ホームの事業をしているが、福祉関係の仕事をする場合、NPO法人を取得しなければならず、8月にNPO法人を取得し地元で式典を開いた。その時の模様を地元の神戸新聞社に取材してもらった。障がいを持っている人たちの命をお預かりし、地域の皆さんとの懸け橋となるため、地域社会における福祉の向上と市民活動のリーダーとして活躍していきたい。助成金は大切に使わせていただく。

【共同作業所ハーフタイム（京都府）】

印刷の版下とホームページを作業内容にしている。働く意欲はあるが、週2日しか働けない人もいる。今回の助成で晴れてNPO法人設立にこぎつけたい。

保険毎日新聞 9月19日

17　高松支店

担当者コメント　高松支店　小坂 奈央美

助成先の方から「事業を展開していくにあたり、一歩踏み出す勇気をもらったようなもので、この資金を大切に今後の活動に役立てたい」との言葉をいただき、熱い思いを後押しすることができ、うれしく思いました。また、地元新聞の掲載も当社をPRする良い機会になりました。



高松支店　贈呈式の様子







福祉施設に30万円助成

損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団（理事長・佐藤正敏損保ジャパン社長）は二十六日、高松市紺屋町の損保ジャパン高松支店で、障害福祉サービスのメタセコイア（十川東町）にNPO法人設立の助成金として三十万円を贈呈した＝写真＝。

NPO設立の助成金贈呈

は同財団の行う社会貢献活動の一環で毎年実施。今年は全国から八十二団体の応募があり、メタセコイアなど計四十六件に助成した。

贈呈式では、中村茂樹高松支店長（四七）が「社会や地域に貢献してほしい」と目録を手渡し、受け取った中村美紀代理事長（四三）は「子どもの未来に向け、よりよい環境を整えたい」と感謝を述べた。

メタセコイアは七月に設立。十月から短期入所事業と日中一時支援事業を始める予定で助成金は事務機購入や講演会開催に充てる。

四国新聞 8月27日

18　九州業務部総務課

担当者　九州業務部総務課　籾 洋子

九州業務部総務課　贈呈式の様子　2008年8月8日実施







19　長崎支店

担当者　長崎支店　青木 慎一郎



長崎支店　贈呈式の様子

20　宮崎支店

担当者コメント　宮崎支店　杉本 好幸

助成先のかたから、活動への思い、作業所運営を通じての喜びやご苦労のお話をお聞きし、この制度で少しでも活動のお役に立てることに改めて大きな意義を感じました。

R20 古紙配合率20%再生紙を使用しています